

無駄を省き、限られた予算を最大限生かす議論を



南島原市議会議長
梶原 重利

会となった次第です。さて、新しい年が始まりました。苦しかった一年から一転、皆さんの家庭でも一陽来復と家族の健康を祈りながら新年を迎えられたことと思います。

環境問題やごみ処理対策などの行政課題が山積しております。私たちは、今こそ「豊かで活力のある南島原市」の実現のために行動していく必要があると考えています。そのためにも、南島原市の未来について熟考し、日々議論を重ね、議員相互の研鑽を深めています。

明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年は、日本人にとって、忘れることのできない悲しい年となりました。

東日本大震災で私たちが失ったものはあまりに大きく、10カ月が経過した今もお苦しむ人が多数いらっしゃいます。

その一方で、苦難の前に、手を取り合い、声を掛け合い、力を合わせる姿に、私たち自身が励まされた一年でもあったと思います。こうした姿は、日本人のあるべき姿、向かうべき姿ではないかと、私自身考え直す機

毎日を忙しく過ごす中で、私たちは目先のことにとらわれ、ふるさとへの思いや絆を忘れがちになります。今一度、この区切りの時に、じっくり自分というものを振り返り、新年の「思い」を新たにすることも、意義深いことではないでしょうか。

私たちは、ふるさと南島原市の議員として、これまで築き上げられた各地域の特性を最大限に生かしながら、「ふるさと」を守り、さらに充実発展させていくため、日々精進しています。本市においても、市民の生活圏域の拡大や高度情報化社会への対応、少子・高齢化社会を迎える子育て支援、介護保険をはじめとする保健福祉の充実、

今、地方分権が大きく変わろうとしています。こうした変化が、皆さまの生活にどう関わるのか、市はどうあるべきか、自治体の意思決定機関である議会として注視しなければならぬと考えています。

ふるさと南島原市の発展のためには市民の皆さんから、これまで以上の温かいご支援とご協力が必要です。

結びに、新しい年が皆さまにとって、ご健勝で、実り多い年でありますようお願い申し上げます。まして、年頭のごあいさついたします。



「こぎ出せ！長崎」を旗印として



長崎県知事
中村 法道

新年あけましておめでとうございます。県民の皆さまにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

はじめに、東日本大震災に際しましては災害発生直後から、県民の皆さまのご協力をいただき、被災地支援に全力で取り組んでまいりました。本県が過去の災害において全国の皆さんからいただいた支援に対する感謝の気持ちを忘れることなく、今後とも、被災地の1日も早い復旧、復興を願い、県民を挙げて支援に努めてまいりたいと考えておりますので、変わらぬお力添えを賜りますようお願いいた

します。さて、県では昨年、新たな「長崎県総合計画」をスタートさせ、「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県づくり」を目指し、さまざまな施策に取り組んでおります。今年も一つひとつの課題に正面から向き合い、少しでも多くの成果を県民の皆さまにお示しできるよう努めてまいります。

「アジア・国際戦略」の推進につきましては、昨年は「孫文・梅屋庄吉と長崎」プロジェクトを通して、本県と中国との深い絆を改めて認識したところであり、国交正常化40周年の節目の年に一層の交流が見込まれる中国をはじめ、アジア各国とのさらなる交流拡大を図ってまいります。

また、昨年就航した長崎―上海航路により、日中の新幹線や高速道路網を一つに結ぶ

新たなアジアとの交流軸が形成されることとなります。中国から人や物の流れを呼び込み、長崎をその交流拠点として再構築することで、本県経済の活性化にもつなげてまいります。

今年10月の「全国和牛能力共進会」、平成25年の「長崎しおかぜ総文祭（全国高等学校総合文化祭長崎大会）」、そして平成26年の「長崎がんばらんば国体」と、県内外から多くの人にお越しいただくイベントが続くことから、引き継ぎ、歴史、文化、食や自然など本県の魅力発信に努めてまいります。

企業誘致につきましては、東日本大震災を機に、リスク分散のため生産拠点の移転に関心を持つ企業が見受けられることから、工業団地の整備と積極的な誘致を行い、雇用の場を確保してまいります。

また、「地域発の地域づくり」につきましては、その取り組みを支援することで、地域の元気を取り戻し、県全体の活力の創出につなげてまい

ります。加えて昨年は、山口国体の本県勢の躍進や、「しおかぜ総文祭」に向けた高校生の頑張りなど、若者たちの活躍が印象的でした。そのような中、本県出身の内村航平選手が昨年の世界体操競技選手権大会で個人総合優勝を果たし、前人未踏の大会3連覇を成し遂げました。この偉業に対して、県民栄誉賞を贈呈しました。今夏のオリンピックでのさらなる活躍を期待しております。

今年も「こぎ出せ！長崎」を旗印として、県民の皆さんと力を合わせ、本県の総合力を發揮し、厳しい時代の荒波をしつかりと乗り切って、本県の未来を切り拓いてまいります。ぜひ皆さまも、県政への積極的なご参画をよろしくお願いいたします。

結びに、本年が皆さまにとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

南島原市の2011年は、こんな年でした



4月
全国公募の副市長が誕生。（応募総数 253 人）



4月
東日本大震災の支援として、南島原市が宮城県南三陸町を重点支援すると発表。



7月
有馬のセナリヨで行われていた授業を400年ぶりに再現。



8月
天正遣欧少年使節が訪れたイタリアから、アンナ・スペッキオ（国際交流員）が着任。



9月
大野木場小学校舎焼失から20年。メモリアルデー2011も例年以上に盛大に実施。



9月
南島原市で初めてとなる修学旅行生の農林漁業体験宿泊を実施。



11月
大相撲力士 佐田の富士関が幕内に昇進。島原半島では初。